

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	14	学校名	茨城県立佐竹高等学校				課程	全日制		学校長名	竹下 威男					
教頭名	栗原 進								事務(室)長名	関 一男						
教職員数	教諭	34	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	46
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	85	115	87	113	94	101			266	329	15				
	科															

2 目指す学校像

社会の変化に対応できる能力を備え、民主的で平和的な国家及び有為な社会の形成者として、豊かな教養と品格のある人間、健全でたくましい身体と精神を持った生徒の育成を目指す。
また、教職員が一致協力して学校運営に努め、生徒一人一人の進路実現を図る。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	自ら課題を見つけて学習する意欲が不十分であり、家庭学習の習慣を定着させる必要がある。	主体的な学びの姿勢をどう確立するか。
進路指導	大学進学率は向上しているが、国立大学合格者が少ない。就職はおおむね希望を満たしている。	国立大学合格者を増やす取組をどう進めるか。職業観・勤労観をどう育成するか。
生徒指導	問題生徒は減少しているが、更にきめ細かな指導・対応が求められる。	規律と規範を兼ね備えた品位ある人間の育成をどう進めるか。
特別活動	ホームルーム活動の内容が不十分であり、主体性の育成が図られていない。	生徒が自主的に取り組むためにどのように支援すればよいか。

4 中期的目標

- 1 生徒が主体的な学習に取り組めるように、コースに即した教育課程を編成し、公開授業等を積極的に行って教科指導の研修に努め、教育内容の充実を図る。
- 2 国立大学の合格者を増やすために、学業による推薦合格者を中核としたきめ細かな進路指導や課外指導の充実を図れるような指導体制を整える。
- 3 規律ある生活と規範意識の高揚を図り、品格のある人間の育成に努める。
- 4 生徒の発表能力向上のために、文化祭やクラスマッチなどの学校行事に主体的にかかわらせる。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	基礎・基本を精選・重点化した学習指導の実施 3年間を通じた計画的な進路指導の実施 規律ある生活・規範意識の昂揚を図る。 学校行事には全教職員があたり、特別活動の充実発展を図る	授業公開を各教科とも実施し、教科指導の改善充実を図る。 国立大学合格者を増やすために、進路指導部を中心とした「学力向上委員会」を設立し、センター試験受験可能な学力を身に付けさせる。 校内から現金盗難事故撲滅、未然防止に努め、遅刻欠席数の一層の減少を図り、制服をきちんと着こなせるように努める。 今年度一般公開となる文化祭「竹陵祭」を成功させるために生徒の自主性を尊重した計画・立案・実施・運営に全教職員がかかわるようにする。	
2年次	目的を持った発展的な学習への取組 大学進学率の向上 主体的な学校生活への取組み 部活動の活性化	各教科とも年間を通じた授業計画表(シラバス)を作成し、年度当初生徒に示すことによって、自主的・計画的な学習の実現を図る。 国立大学を含めた4年生大学の進学率向上のために、進路指導、学習指導、各教科間の連絡を密にし、個人面接の充実、進路ガイダンスの積極的活用を図る。 制服をきちんと着こなし、あいさつやマナーの向上に努め校内から盗難等の不祥事が発生しないよう努める。 「部活動の佐竹」をスローガンにしているので、加入率を男子は平成15年度より5ポイント増の80%、女子は15%増の50%を目標にする。	
3年次	自主的・主体的学習の確立 進路指導体制の確立 品格ある人間性の育成 学校行事を通じた帰属意識・協調性の涵養	英語検定2級合格者、漢字検定準2級合格者を増やし、更に大学の公開授業に積極的に参加させ、学ぶ喜び、知る楽しみを自覚させる。 生徒一人一人の進路実現のために、コース制を見直し、コースに即した特色ある教育課程編成を実現する。 生徒一人一人が自立した、豊かな人間性を有し、自主自律に富み、学校全体が品位のある、融和的な人間関係が結べることを実現する。 生徒を主体とした学校行事の企画・運営を通して、クラスマッチ・マラソン大会等を自主運営させ、達成感・成就感を味あわせることによって、アイデンティティを持たせ、明確な存在意識を育成し、愛校心に結びつける。	